

# 伝統文化や各種行事の積み重ねが 絆を強める

静岡県沼津市 第三地区下香貫連合自治会

第三地区下香貫連合自治会 会長 川添 孝行

## はじめに

第三地区下香貫（しもかぬき）連合自治会は19の単位自治会の集合体であり、約4000世帯、約1万人で構成されています。75歳以上の人口は約1400名、高齢化率は約30パーセントと沼津市における高齢化率とほぼ同等であります。市内においては平均的な地区であります。また、当地区はその昔、楊原村と称しており、大正12年（1923）7月1日に沼津町と対等合併することによって、全国で89番目の市となる沼津市を誕生させた、古い歴史のある地区です。

古い伝統文化も、永く引き継がれてきましたが、昨今の少子高齢化は、地区の各種行事においても暗い陰を落としはじめてき

ました。

## 厳冬海中みそぎ祭りの継承

例えば戦前から行われてきた「厳冬海中みそぎ祭り」は、ぬまづの宝100選にも登録されている由緒あるお祭りです。昔は

正月十五日に行われ、一つの神輿を50人〜60人で担いで、裸の男たちが海に分け入る勇壮なお祭りでしたが、先の大戦で神社が焼失し全てを失ったことにより、永らく途絶えてしまいました。このお祭りを地区住民の手により2001年に半世紀ぶりに復活させることができたものの、先程述べたように、高齢化

が進み、氏子たちも80歳以上の高齢の方たちが多くなっている現状では、行事を維持することが困難になってきています。そのため、この伝統ある行事を伝承していくために、数年前から自治会にも協力を求められています。自治会も役員の担い手不足や、高齢化が進んでいることなどにより、



厳冬海中みそぎ祭り



これらの伝統行事と距離を置く自治会も出始めました。また自治会行事と神社行事との関わり合いを敬遠する会員もあり、各自治会も様々な意見がある中で、問題解決に約1年近くの歳月を費やしました。しかし、多くの方の協力により、ようやく各自治会持ち回りとして、当番町を決め、今年2月には当年度で退任する前自治会長で祭典委員会を組織し、新年度の自治会長をサポートする組織として結成するまでに至りました。これは各自治会長が小異を捨て大同につくことを決断してくれたお蔭と心から感謝に堪えません。これからも次世代を担う子どもたちのため、その両親、また周辺にも理解を求めつつ各種行事の必要性を訴えていかなければと考えます。

### 「牛臥海岸歩こう会」における住民の交流

また古い地区ゆえに、自治会ごとの結束は固いものがありますが、他自治会の方と触れ合う機会が少なく、個々の集団意識が強く全体で何かをすることに抵抗がつきまとう傾向があります。このため、先人たちは一堂に会し結束できる場として、数十年前に「牛臥海岸歩こう会」を計画し、実行してきました。毎年200人前後が参加し

ますが、参加しない自治会も多く、費用対効果を考えると、頭を悩ます問題であります。しかし、この「歩こう会」を通じ、お金だけでは解決できない様々な課題があることに参加者も気付いてきました。

例えば、県内でも有数の長い海岸線を持つ沼津市では、ひとたび大雨や強風の影響を受けると、海岸にごみが打ち上げられることを、海から離れている当地区の住民は知る由もありませんでした。このことから、海岸の漂着ごみの実態を知るため、8年前からこの「歩こう会」におけるプラスチックの活動として、「海岸保全の一環としてのごみ拾い」を取り入れました。参加者の皆さんは反対者もなく、ごみ拾いに汗をかき、その後には海岸でゲームや親睦会を行うことよって、自らの自治会以外の方たちとの親睦も深まり、大きな成果を生む機会が芽生え始めています。

年々参加者も増え、同時に、ごみに対する意識も変わり始めました。今年は約530名が参加し、海岸の



牛臥海岸歩こう会

ごみが一掃できました。主催する側も柔軟な発想で企画を考え、一朝一夕には解決できることばかりではありませんが、役員間のやる気を導き出すために、「過去はこうだった：」「だからこうあるべきだ」という概念を取り払うことがいかに大事かを知らる機会を得ました。

### 「どんどん焼き」開催時間の変更による活性化

毎年正月明けに実施される恒例の「どんどん焼き」は3年前から開始時間を朝6時から朝10時に変更しました。この理由は、地域の方々が昔から言い伝えられ、代々受け継いで来た伝統行事でさえ、社会の変化や共働きの増えたことで親たちの折角の休日くらいゆっくり休みたいとの思いなどが影響し、早朝からの子どもたちの参加にも影響を与え、子ども会においても自主参加とする傾向が増え始めたことによるものです。これら少子化や親の共働きの増加などの要因により、この「どんどん焼き」が廃止に追い込まれることを避けるためには、子どもたちだけでも参加ができる時間帯への変更が必要であると考えました。

また、折角地域の人たちが、子どもたちの無病息災を願う行事であるにもかかわらず



地区社会福祉協議会 寿サロン



文化祭

ず、まだ暗い早朝6時開始であったは、子どもだけの参加に安全上の問題が懸念され、このままでは参加者の減少に歯止めをかけることは困難と感じたからです。

これにより、主催する関係者の負担が大きくなり、抵抗もありましたが、変更後は、子ども会も参加者の顔が見えることで安心感が生まれ、以前のような賑わいを見せ始めています。臨機応変の対応により地区の伝統行事が守られるものと思っています。

### 地区社会福祉協議会による 高齢化対策

高齢化対策としては、地区社会福祉協議会の活動が挙げられます。地区社会福祉協議会の会長、企画委員長、事務局長は地区連合自治会役員が兼ねており、ここでは高

齢化問題にスポットを当て、認知症予防対策の一環として、年3回の寿サロンを開催しています。

数年前までは、参加者を70歳以上の独居老人としていました。しかし、家族と同居している高齢者も、昼間、孫は学校、娘や息子は仕事で留守となり、日中は独居老人になっていることに気付きました。対象を日中の独居者にも拡大しました。数年前の独居老人のみであった時は30名の参加でしたが、対象を拡大することで、今では100名を超える参加者となり、盛況なサロン活動となりました。一方、参加人数が増加していく中、参加者に費用の一部として1回300円の負担をお願いすることにより、この活動を継続していくための仕組みづくりを行いました。

また、高齢者を中心に「命のカプセル

1800個」の導入も行い、安心安全なまちづくりを心がけています。

### 第三地区コミュニティ推進 委員会によるコミュニティ活動

昨年からは、中学校校区内の他の地区連合自治会や前述の地区社会福祉協議会、学校PTAなどの関係団体とともに構成する第三地区コミュニティ推進委員会(35自治会、約8000世帯)によるコミュニティ活動を本格化させることを目指し、文化祭を開催しています。昨年の文化祭には、多くの住民が参加しましたが、今年も昨年以上に地域の触れ合いができるよう企画し、触れ合いの輪を拡大し、老若男女が将来のまちづくりにもっと気軽に貢献できるような機会となればと考えています。

### 最後に

沼津市は64キロメートルに及ぶ海岸線を持ち世界遺産の富士山に抱かれながら山の幸、海の幸、川の幸に恵まれています。この地に息づく伝統や文化、地域の触れ合いを大事にすることで子どもたちや孫たちにも、良い文化と、良いまちを残していきたいと考えます。